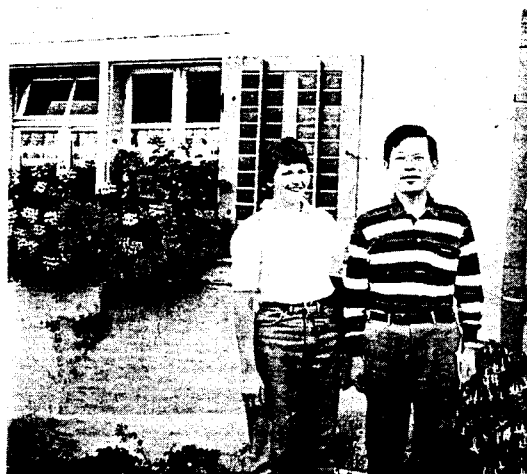


ゲルマン人の実行力

片 木 淳

(事務局長・高知県総務部長)



スイス・オーバービュールにて
(農家クネヒト家の奥さんと)

1. 人間理性の絶対的信頼

ドイツに赴任して間もない頃、右側通行に慣れるため自動車学校に行った。すぐ路上教習ということで街に出たが、覚えただけの片言のドイツ語で苦労した。「Geradeaus (まっすぐ)」、「Rechts (右にまがって)」、「Links (左にまがって)」といわれて意味がわかった頃には、交差点を過ぎていたこともしばしばだった。

なかでも、驚いたことは、街中の交差点で日本のように徐行して左右を慎重に見ると、ひどくしかられたことであった。「青信号なら、そのままわき目もふらずどンドン行け。」という。社会ルールは、皆が守るはずだし、守らなければならないというわけである。

今回の調査でも、アウトバーンを走る機会があったが、ヨーロッパでもドイツだけの「速度制限なし」というのには全く驚かされる。おとなしい我々平均的日本人からみれば、国民全員が「暴走族」のようなものだが、ドイツ人に言わせれば、「自動車の性能が良く、道路の設計がそのようになっており、皆が交通ルールを守るのだから事故など起こるはずがない。」というわけである。

ドイツ人にとって、第六感といったものはあまり重要視されないのではなかろうか。「なんとなく」というような曖昧なことは、完全に無視されるというか、もともとそのような「非理性的」なものはドイツ人の頭の中にはないような感じを受けるのである。ある意味でヒトラーによるナチの惨事も、このようなドイツ人の考え方からきている面があると思う。どんな極端な考え方であれ、頭で納得すれば直ちに実行に移

されるのである。

2. ドイツ人の徹底性

昨年10月3日、ついにドイツが統一した。おもえば20世紀の世界史は、ドイツの一人芝居のようなものであった。2度の世界大戦を惹き起こすとともに、マルクスの共産主義理論とブラウンのロケットが世界を東西に引き裂いた。恐るべき民族である。我が筒井団長の祝辞に対して、バーデン・バーデンのザウアー局長は、「わたしどもも、アジアのプロイセンといわれた日本に北方領土が返還されることを望みます。」と言ってくれたが、さて我が日本政府にどれだけの実行力があるか、今後の課題である。

最近の我が国の課題に対しても、ドイツ人のやっていることで参考になることが多い。多極分散型の国土づくりといったことについては、その連邦国家体制が示唆するところまことに大きいものがある（拙著、ぎょうせい「地方分権の国ドイツ」）。リクルート事件の後、最大の懸案となっている選挙制度の改革関係では、比例代表制併用の小選挙区制度と政党に国が補助金を出すドイツの政党法が、また、異常な日本の地価高騰の下、土地利用の規制に関しては、「秩序ある都市発展等の公益に適合させるための建築の自由の否定、市町村の計画権限の強化、精緻かつ厳格な地区詳細計画」等からなるドイツの都市法がしばしば引き合いに出され、あるいは、第二次交通戦争がいわれる状況のなか、ドイツの徹底的かつ総合的な交通事故死半減対策の成功が目玉を浴びるなど、なにかにつけてドイツ、ドイツである。

今回の調査でも、ゲルマンの一派アレマン族の末裔であるスイス人を含め、このような徹底した実行力に感心させられることが多かった。環境と景観の保全のための厳しい規制、急傾斜地に対する思い切った助成、過疎化阻止のための全く新しい発想に立った政策等未来に対して挑戦していく積極果敢な姿勢と意気込みを痛感させられたのは私一人でなかったのではなかろうか。

3. 平成高知の岩倉使節団

もう120年も前の話になってしまったが、明治6年3月15日、岩倉使節団は、ビスマルクの招宴に臨んだ。ビスマルクの右に座った木戸孝允は、必要なら人材を選んで送ろうというビスマルクに答えて、「我日本の人民も元より独逸の人民も毫も異なるなし、恨むところは只数百年国を鎖し、自ら宇内の形勢に暗く、また四方の学問を研窮するの暇なし、依て交通の際遺憾とするものまた不少、希望するところ努力して速

に地位の進むを祈る而已」と言った。また、大久保利通も、西郷に宛てた手紙の中で、「当国ハ他ノ欧州各国トハ大ニ相異ナリ。淳朴ノ風之アリ」とほめ、使節団の調査報告書「米欧回覧実記」の著者、随員久米邦武は、「其国是ヲ立ルハ、反テ我日本ニ酷タ類スル所アリ、此国ノ政治、風俗ヲ講究スルハ、英仏ノ事情ヨリ、益ヲウルコト多カルヘシ」と書いた。

例えば、森林関係では、使節団は既に当時、車窓からヨーロッパの平原に展開する森と林を眺めつつ、「方今ハ、欧州ニ自由政治ノ益行ハルニ反対シテ、唯山林樹木ノ制ニ於テハ、往時ノ自由ヲ廃シテ、束縛抑制スルノ政度ヲ立ルニ至リシモ、畢竟ハ衆庶ノタメニ、永利ヲ図レル所ナリ」と述べるなど、かなり核心を衝いた調査をしている。

平成高知の我が岩倉使節団が何をつかんで帰り、今後何を実行して行くか、それは、高知におけるこれからの地域づくりの歴史が示すところである。

私のヨーロッパ見聞録

中 内 敏 男

(高知県市町村振興協会事務局長)



シルトホルン展望台にて

12日間の短い旅だったが、「百聞は一見に如かず」で、やはり現地へ行って見ることによってその実態、マスコミ等で報ぜられない部分を含めて、知ることができた。

とくに注目させられたのはわが国と違っている点で、ここにそのいくつかを紹介して「私の見聞録」としたい。

その1つは、環境保全が徹底

して図られていることである。

われわれが訪ねた西ドイツの南部からスイスにかけては、家毎に窓やベランダに季